

夏の星空観察会

8月7日 [鉄の歴史館]



講義後、星座や望遠鏡について質問する参加者も

こどもエコクラブ夏の星空観察会

8月21日 [釜石鵜住居復興スタジアム]

星空を見上げ、大気環境について考えることを目的として2度の観察会が行われました。両日とも曇天のため星座を見る事はできませんでしたが、参加者たちは星にまつわる神話や宇宙の成り立ちの話に耳を傾け、夜空に思いを馳せました。21日の講師を担当した大久保孝信さんは「今日は星を見られなかったけれど、晴れた夜に空を見上げてみてほしい。何億年も前の光が今地球に届いていることのロマンを感じてもらえば。今の子どもたちなら何十年か先にやって来るハレー彗星も観察できるかも」と語りました。



メインスタンドの屋根にスライドを投影して説明が行われました



15分間で約450発の花火が夏の夜空を彩りました

唐丹の花火

8月9日 [唐丹町小白浜漁港]

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年8月上旬に開催されていた「唐丹ゆめあかり」も中止となりました。このような中「唐丹ゆめあかり」に関わっている花火業者の支援と地域団体の協力により、花火が打ち上げられました。ステージ発表やライトアップなどは行われませんでしたが、漁港周辺には浴衣姿の地元住民も訪れ、夏のひとときを楽しみました。



青と茶色のコントラストでスタジアムに
KAMAISHI UNOSUMAIの文字が現れました

釜石鵜住居復興スタジアム 塗装ボランティア

8月9日・23日 [釜石鵜住居復興スタジアム]

ラグビーワールドカップ1周年を前に、木製座席の塗り替えボランティア作業が行われました。取材した8月9日はあいにくの雨模様でしたが、ブルーシートで防水をして作業が行われました。参加者は釜石地方森林組合の指導の下、座席の表面を丁寧に磨き、塗装をしました。当日、飛び込みで参加したという男性は「イベントは偶然SNSで知った。このスタジアムは大きな施設ではないけれど、思ひが詰まっていると感じる。メンテナンスに一役買えて感激している」と話しました。

釜石線全線開業70周年記念ラッピング列車出発式

8月29日 [JR釜石駅]

釜石線は10月10日(土)に全線開業70周年を迎えます。これを記念した取り組みの一環として、釜石出身のアーティスト小林覚さんがデザインした、ラッピング列車の出発式が開催されました。列車には『釜石線70周年記念銀河ドリームライン』と描かれ、来年2月まで釜石線および東北本線(花巻~盛岡駅間)で運行される予定です。乗車や沿線で見かける機会がありましたら、ぜひデザインに注目してください。



小林さんは、花巻市にある「るんびにい美術館」に所属。釜石線の区間(釜石~花巻駅間)に縁があるとしてデザインを任せられました



石にもそれぞれの個性があることを学びました

やま 鉱山の宝探し

8月1日 [旧釜石鉱山事務所]

鉄の歴史や鉱山資源について学びを深めるイベントが行われました。参加者は三陸の大地の成り立ちや釜石鉱山の歴史をスライドで学習した後、屋外へ移動し鉱石探しをしました。お気に入りの石を見つけた中澤恵太くん(6歳)は「キラキラしてるとれた!」と自然が作った宝物に目を輝かせました。敷地内的人工滝でひとときの涼を取った後は、石の特徴と図鑑を照らし合わせて並べ、自分だけの鉱石標本を完成させました。

釜石市民吹奏楽団サマーコンサート

8月2日 [釜石市民ホールTETTO ホールB]

ホールの扉を開放し、屋外のスペースを観覧席として、観客はマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保など、新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底した上でコンサートを観覧しました。コンサートでは、耳に馴染みのある楽曲が演奏され、子どもからお年寄りまでが楽しめるプログラムになっていました。小さな子どもは「となりのトトロ」が演奏されると、リズムに合わせて体を揺らしながら楽しそうに聞き入りました。



釜石市民吹奏楽団の活動は休止を余儀なくされていましたが、9月の吹奏楽祭や11月の定期演奏会に向けて活動を再開させています



将来のオリンピック選手を目指して頑張って!と激励しました

水泳用品の寄贈

8月6日 [釜石市営プール]

新光建設(株)(倉田信海社長)から市営プールにスイムヘルパー、スイムボードが寄贈されました。

贈呈後、倉田社長は「子どもたちには水泳の技術向上をしてほしいと思うが、それ以上に泳げるということは命を助けるスキル。最近は水に関する災害も多いので、今回寄付した道具が水に慣れる助けになれば」と寄付に至った思いを語りました。

東日本大震災犠牲者供養

8月7日 [釜石祈りのパーク] [大平墓地公園 物故者納骨堂]



市職員による献花



釜石仏教会による読経

市は、例年8月9日に戦没者追悼式と併せて震災犠牲者の供養を行ってきました。本年度は新型コロナウイルス感染症予防のためやむなく追悼式を中止しましたが、市職員による犠牲者の供養を執り行いました。釜石祈りのパークでの献花とともに、9柱の身元不明の遺骨が安置されている納骨堂にて釜石仏教会の協力により焼香。犠牲者の安息と、一日も早い身元の判明を祈念しました。野田市長は「艦砲射撃、震災ともにたくさんの方が亡くなっています。毎年8月は、追悼の思いを市民の皆さんと共有する時期だ」と話しました。